

先日「高校生の心に響く言葉」とインターネット検索をしてみました。『高校生の心に響く「進路に迷ったときに見てほしい名言12選」』

(<https://edmagazine.jp/shimo-meigen/>) というものがあり、そこから引用・紹介させてもらいます。

高校生になると具体的な将来について考え始める人もちらほら。漠然とした将来像はあるものの、具体的に進路を決めるとなると、いまいちピンと来ない人も多いのではないだろうか。しかし、卒業までの3年間で進路を決めなければならないことも事実。そんなときは、人生の先輩たちが残した「名言」に力を借りてはいかがでしょうか。

不安な気持ちを楽しんでくれる名言

自分の将来について、不安に思う気持ちは誰にもあるものです。やりたいことがあっても、一歩踏み出す勇気が持てなかったり、自分の選択は正しかったのかと迷いがでてしまったりすることも多いでしょう。そんな時は、心を軽くしてくれるこちらの名言に力をもらいましょう。

レイガガ

何か「つまづいて暗闇のどん底」落ちてても、才能は消えないわ。ただ、見つかりにくくなるだけ。落ち込んだ時に、暗闇の中の小さな光を探すのよ。



レイガガガ
イラスト&sq=1&si

洗練された楽曲の完成度だけでなく、奇抜なファッションやメイクでも私たちを楽しませてくれるレイガガは、その存在自体がアートともいえるでしょう。ブレイクするまでに長い下積み時代を経験した彼女から発信される言葉は、世界中に影響を与えています。

落ち込んでしまった時に、読みたい名言です。挫折しても、自分の才能や努力がなくなるわけではありませぬ。光が見つかったらまた進んでいけるはずですよ。



いつの時代も、どこの国でも、人は皆、悩み迷いながら生きているのだと思います。自分の心にストンと落ちる魔法の言葉、それがきつとあるはずですよ。多くの人の言葉に触れましょう。できれば文字で。そして、言葉の貯金に加えて生きていきましょう。高校時代に貯金した言葉は、社会に出てからや中年・老年になってからの貯金とは一味も二味も違う意味を持ちます。市柏の校歌「人生で一番の輝きの時」の貯金です。

今年7月、文部科学省は2022年度に高校普通科を再編する方向性を示しました。

ソフトバンク(株)の宮北幸典氏が高校普通科の再編に関連し、月刊高校教育10月号に「改革が迫られる学校教育の現場」と題して、次のように書いています。

そもそもなぜこのような再編が検討されているのだろうか。本来、学校は社会に出るための練習の場であるが、テストの得点が高い優等生ほど社会に出たときのギャップにつまずくことになる。それは、教科という決められた範囲のものを覚え、再現するということに時間と労力を費やしてきたが、そのような知識・技能はICTを活用すると簡単に求めることができってしまう。実社会で求められるのは「ICTの応用力」であり、一般的な企業活動である「答えのない課題に対し、最小のコストで最大の効果と価値を組織全体で生み出す」という体験が学校教育と社会とのギャップを埋めることになるからだ。

高校生のみなさんも、学習指導要領に「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が明記されたことは知っているかと思いますが、自分の授業での姿を客観的に見つめてみてください。ただ座って受け身で過ごしてはいませんか。朝練で疲れたせいで、ボーっとしたり、ひどい場合は寝たりしてしまっていないませんでしたか。

「答えのない課題に対し、最小のコストで最大の効果と価値を組織全体で生み出す」

授業では答えのある課題が多くありますが、クラスという組織全体で学習課題を解決する主体的・対話的な自分にしていきましょう。授業1時間1時間は、あなたの将来とつながっている時間なのです。すべての時間はつながっています。特に自分を高める意味で、授業時間の意味も大きいはずですよ。